

第344号 平成27年1月

東京都農業会議情報

編集及び発行 東京都農業会議

TEL 042-525-0780
立川市柴崎町3-5-24

新年にあたって



青山会長

新年、明けましておめでとうございます。日本農業は大きな変革期にあります。これまで地域農業の牽引力として活動してきた農業委員会と農業協同組合が

改変を迫られております。特に農業委員会は選挙制度・定数・建議という、組織の要の部分にメスが入られようとしております。

東京には都市・農山村・島嶼、それぞれの地域で厳しい環境の中、地域の特性に応じた農業振興と農地利用促進に向けて、農業委員会は活動を展開して参りました。全国で最も熱心な活動を行っている

東京都農業会議会長 青山 俊

のが東京都の農業委員会であり、この度の組織改変が悪い方向に向かないよう、全国とも連携しながら運動して参ります。

一方、都市農業では念願の基本法が臨時国会提出直前に、突然の解散によって棚上げになってしまいました。し

かし、今年の通常国会では必ず実現しなければなりません。

本年はこのような節目の年であり、農業委員各位の一人一人のご活躍をお願いし、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

農業委員会活動推進フォーラム開く

都農業会議は、11月21日（金）に府中市生涯学習センターにおいて、農業委員会活動推進フォーラムを開き、約240名の農業委員などが参加しました。

箕面市の遊休農地解消対策や

大阪府の農業・農業委員会活動など研究

農業委員会研究集会

都農業会議は11月25日から26日の2日間にわたり、大阪府内で農業委員長研究集会を開きました。

1日目は箕面市を訪れ、同市の農業委員会から遊休農地の解消対策や農業公社の活動について研修を受けました。

今年2月に一般社団法人として独立した箕面市農業公社は、調整区域内の遊休のおそれがある農地を借り入れて学校給食向けの野菜を生産する農地借り受け保全事業と、地元の家が生産した野菜を買い取って学校給食に供給する地場産学校給食推進事業に取り組んでいます。

現地視察では、府の農空間保全事業を活用して農道の拡幅など営農環境の改善がはかられた地区を見学しました。

2日目は大阪府農業会議の鈴木事務局長を講師に迎え、大阪府内の農業の概要や府内の農業委員会の活動について研修を受けました。



農業委員など約240人が参加した

第56回東京都農業委員・農業者大会を開きます

都農業会議と農業委員会 地区協議会・連合会は「第56回東京都農業委員・農業者大会」を平成27年2月26日（木）午後1時より「昭島市民会館」で開催します。大会では、「東京農業の確立に関する要望」、「都市農業振興と都市農地保全に

「農業経営の基盤づくりと東京の農地保全」をテーマに開催され、農業委員会制度改革を巡る動向や都市農業・農地の状況についての講演・情勢報告、農業委員会からの意見発表などが行われました。（関連記事3面）



箕面市での現地視察の様子

都内全域で農地利用状況調査を実施 重点的な農地パトロールに取り組み

都内の農委会では、8月～10月を農地管理・流動化推進月間に設定し、それぞれ農委会で1ヶ月を目安に、農地利用状況調査をはじめ重点的に取り組む運動を全都的に進めました。

特に、4月1日から農地法の改正により、農地利用状況調査に関する事項が変更され、その対応については、要綱を定め、対応をはかりました。

町田市農委会（吉川庄衛会長）では、市街化調整区域にて、農地利用状況調査により不耕作が見られる農地所有者に対し、農地意向調査を実施し、さらに、農業委員が説得にあたることなどにより、農地バンクに約7千㎡が登録さ

農地管理・流動化推進月間

れ、今後、農地利用集積円滑化事業を通じ、担い手バンク登録者へあつせんがされること

農業者年金の加入事例や

社会保障制度など研究

農業者年金記録管理システム研究会

および制度推進研究会

都農業会議は、11月27日に農業者年金記録管理システム研究会および制度推進研究会を開き、農委会・JAの職員、加入推進員（農業委員）など約30名が出席しました。

推進研究会では、日野市農業委員の岩沢宏氏を交えた対話形式で、加入事例の発表が行われました。

その後、特定社会保険労務士

となりります。

国分寺市農委会（榎戸岩男会長）では、農地利用状況調査の結果を地区座談会で報告をし、農委会の活動や役割を周知するとともに、農地の保全管理の徹底に努めています。

の藤本紀美香氏が、社会保障制度などについて講演しました。



社会保障制度について分かりやすく説明する藤本紀美香氏

農業参入法人や新規就農者の状況など研究

農地利用促進方策現地研究会

都農業会議は、12月18日に、町田市で新規就農などをテーマに農地利用促進方策現地研究会を開きました。

まず農業参入法人の実際として、町田市の農地利用集積円滑化事業により農業参入した（株）キューピーあい（特例子会社）から説明を受け「町田市の協力なしに農業参入はあり得なかった。農業は障害者が能力を発揮できる業種」などと説明を受けました。



特例子会社における農業の可能性について話すキューピーあいの村松さん

来年度の農業委員会活動や

大会要望・建議など協議

都内7地区で農業委員会職員検討会開く

都農業会議は、11月～12月にかけて、7地区で農委会職員検討会を開きました。

検討会では、農委会職員と農委会制度改革の状況と来年度の農委活動、農地台帳の電子化と地図化、大会要望と建議などについて協議しました。

また、区内地区では、あわせて都主税局職員と課税データの取り込み手法や農地の適正管理について話し合いを持ちました。

島しょ地区では、青梅市農

第9回常任会議員会議

平成26年12月17日に開催し、状況は次のとおり。

議事

農地法の規定に基づく知事諮問は、第4条2件6037㎡、第5条3件1743・3㎡を許可相当として答申することを決定した。

協議

平成27年2月26日（木）開催の第56回東京都農業委員・農業者大会開催要

領および第41回農業委員等功労者表彰受賞者を決定した。

納税猶予制度適用農地の現状と「農地管理・流動化推進月間」の状況を

報告し、農地の適正な管理を引き続き農業委員会と協力して推進することとした。

当面の農政問題として、①都市農業基本法、②「食料・農業・農村基本計画」検討への意見・要望、③「花き振興法」基本方針案などについて報告した。



島しょの地区別検討会で(株)彩の櫛の佐藤社長から話しを聞く

農業委員会活動推進フォーラム概要

農業委員会活動推進フォーラムの主な内容は、左記のとおりです。
講演

全国農業会議所の柚木事務局長から「農業委員会制度等の見直しを巡る動向」について講演しました。

状況報告

「都市農業・農地をめぐる状況と今後の活動」について、都農業会議の原事務局長より報告しました。

意見発表

「これからの農業経営を支える都市農地制度堅持とその対応」をテーマに、国分寺市農委会の榎戸岩男会長より、最近の農地管理状況

農業委員会制度・組織改革への対応など決議

全国農業委員会会長代表者集会

全国農業会議所（二田孝治会長）は、12月4日、全国農業委員会会長代表者集会を日比谷公会堂において開き、東京からは25区市町の農業委員会長などが出席しました。

農業委員会制度・組織改革をはじめ、基本農政確立のための政策提案、T P P



意見発表をする国分寺市農委会の榎戸会長

をふまえた意見発表を行いました。

このほか、農業委員の公選制の廃止問題や都市農業振興基本法案の内容などについて、活発に意見を交換しました。

への対応など5つの要請・申し合わせ決議が採択されました。

農業委員会制度の見直しについては、会場から公選制の維持を要請すべきとする強い意見が出されましたが、会議所は代表制の確保を求めていくとして理解を求めました。

東京都農業経営者クラブが

台湾の農業事情を視察

恒例の海外農業視察を実施

東京都農業経営者クラブ（清水武男会長）は、11月30日、12月4日に、台湾において海外農業視察研修を開きました。

視察研修では、主に台湾南部の高雄県と台南県で、果樹と野菜の生産を見学しました。

最初に見学したマンゴーの果樹園では、約13アールの農地で、3種類のマンゴーを生産しており、収穫量は年間約2トンとなっています。

市街地に近いため、毎年5月〜7月末頃までの収穫期には、全量を直売で販売しています。

直売では、黒香マンゴーという品種の人気が高く、他の品種が600グラム当たり約180円〜200円なのに対



マンゴー栽培について説明する生産者（右から3人目）

し、黒香マンゴーは約240円となっています。

マンゴー園の経営者は、農繁期以外は、他の農業者の稲作を手伝い、生計を補っていました。

台湾南部は温暖な気候のため、コメの三期作が可能で、稲作の仕事は、安定的にあるそうです。

次に見学したパイナップル園では、およそ10アールの農地で、有機栽培に取り組んでいます。

この果樹園も市街地に近く、近隣の住民への直売を行っています。

3件目には、台湾南部の中核的な野菜産地である高雄県梓官郷を訪れました。

この地域は、政府から蔬菜生産専業区に指定されており、農会という組織が各農家の作付計画などを調整する役割を担い、地域が一体となって計画的に生産が行われています。

この地域では、およそ20ヘクタールの農地で、ホウレンソウやネギなどを生産し、市場、企業の食堂、学校給食などに出荷しています。



高雄県梓官郷のホウレンソウ生産を見学する

特に、有機栽培に力を入れており、5戸で構成する農家グループの中には、年間約3千万円以上を売り上げている集団も出てきているそうです。

4件目に、台南県のバナナ園にて、台湾バナナの試食を行いました。

台湾バナナは、主に台湾内の市場に出荷されています。日本への輸出は、フィリピン産などとの競争が激しく、近年は少量の輸出に留まっているとのことでした。

この他、日本統治時代の技師である八田與一氏が中心となって建設した鳥山頭ダムや、台北市の茶産地として有名な猫空の茶芸館などを訪れ、5日間の日程を終えました。

農業者と消費者で「食と農セミナー」開く

都農業会議と東京都農業経営者クラブ（清水武男会長）、東京都消費者月間実行委員会（笹浪真智子会長）は12月10日に中野サンプラザにおいて「食と農セミナー」を共催により開きました。

農業者と消費者が交流しながら共に学ぶ場をつくろうと企画されたもので、都内の農業者と消費者あわせて約140人が参加しました。

東京農業大学名誉教授で農学博士の小泉武夫氏を講師に迎え、「都市農業で健康長寿の食生活をつくろう」をテーマに講演が行われました。小泉氏は健康的な食生活の秘訣を披露するとともに、他



健康的な食生活について解説する小泉氏

東京 都 農 業 会 議
東京 都 農 業 経 営 者 ク ラ ブ
東京 都 消 費 者 月 間 実 行 委 員 会

の地域の事例も紹介しながら消費者と農業者が接近することが大切だと話しました。

後半は会場内の11の円卓において、農業者と消費者が自由に意見交換を行いました。

参加した消費者は「農家の方からいろいろな話を直接聞くことができ、とても貴重な機会になった」と感想を話していました。

国分寺市の先進農業経営を見学

先進農業経営見学会

都農業会議と国分寺市は11月18日に、同市内において先進農業経営見学会を共催にて開き、3軒の農家を見学しました。

中村克之さんの経営ではイチゴの高設栽培を見学したほか、地域通貨の活用についても話を聞きました。

田中豊さんの植木経営では、独自に育成し、ブランド化しているモミジを見学しました。

多品目の野菜を生産する小坂良夫さんの経営では、

新規就農希望者などが

瑞穂町の新規就農の状況などを見学

新規就農農地見学会開く



花き生産での新規就農の実際について話す中村光輝さん

都農業会議は、12月16日に瑞穂町で新規就農農地見学会

を開き、インターネットなどで参加を申し込んだ約30人が参加しました。

瑞穂町農委会（上野勝会長）は、都内でもいち早く新規就農に取り組み、平成25年度には、農林水産大臣賞を受賞し

江戸川区の農業を消費者が見学

農業応援バスツアー

11月28日、江戸川区において、都内の消費者に農業の実態を知ってもらおうと農業応援バスツアーが開かれました。

これは、東京都農業経営者クラブ（清水武男会長）と東京都消費者月間実行委員会（笹浪真智子委員長）の共催によるもので、江戸川区農業



イチゴの高設栽培について説明する中村さん（左から2人目）



石井誠一さんのコマツナ栽培を見学

ました。見学会では、6人の新規就農者の農地をまわり、それぞれから、話しを聞きました。花き生産で、多摩地域では、はじめて新規就農した中村光輝さんのハウスには、多くの鉢花が並び、栽培する花の選定方法や経営などについて、参加者から多くの質問が出されました。

2月～3月の日程

- 2・3 (火) 組織・活動検討会
- 2・5 (木) 農委会活動研究会
- 2・9 (月) 組織・活動検討会
- 2・17 (火) 常任会議員会議
- 2・26 (木) 56回農業委員・農業者大会(昭島市)
- 3・6 (金) 主任職員協議会
- 3・17 (火) 農業会議通常総会
- 3・17 (火) 常任会議員会議